

# 職場実態と組合員の思いを運動へ 第76回定期地方大会



国労千葉地方本部は、9月23日、千葉県教育会館にて第76回定期地方大会を開催した。今回も新型コロナワイルス感染症拡大防止の観点から消毒などを徹底するとともに、政党や共闘団体などについてはメッシュセージでのあいさつをお願いした。

越川副委員長の「開会

議長には津田沼分会の藤原さんが就任し、「闘いが困難なかつたとき、貴重な意見をいただき、明日からの進むべき道を

あいさつ」で開会。

加藤委員長のあいさつ

の後、東日本本部渡辺副委員長よりあいさつを受け、続けて先日の東日本本部大会の機関紙表彰で最優秀賞に輝いた蘇我運輸区分会への授賞式が行われた。その後、千葉地本機関紙コンクールの表彰式も行われた。

議題に入り、2021年度決算報告と経過報告。

続いて2022年度予算案と運動方針案が提起され、中間答弁を挟み10名の代議員より発言を受けた。

地本答弁の後、北嶋書記長が集約し、満場の拍手で一年間の運動方針案

# 国労ちば

## 労働組合だから出来る運動を



藤原議長

と予算案が採択された。

2022年度役員改選が行われ、新たに両国分会の中島さんが執行委員に就いた。

藤原議長は解任あいさつで「周囲から何で国労を抜けないんだ?と言わることがあるが、信頼できる仲間がいるからだ」とあいさつし、その後の議事が進められた。

加藤委員長のあいさつ

の後、東日本本部渡辺副委員長よりあいさつを受け、続いて先日の東日本本部大会の機関紙表彰で最優秀賞に輝いた蘇我運輸区分会への授賞式が行われた。

その後越川副委員長の「閉会あいさつ」を受け、加藤委員長の音頭でガンバローを三唱し大会を締めくくった。

1点目として、組織の強化・拡大について。

歴史と伝統ある運動を私たちの代で終わらせるわけにはいかない。労働組合の存在意義は大きい。労働場には労働組合が必要だという声は少なくない。分会再編でバランスをとった体制を喫緊に整えなければ運動が継続できなくなるという危機感を持ち、次のステップに移行できるような体制を整えていく。

2点目は「地域住民の足を守る運動」の更なる展開について。

国交省が「地方鉄道のあり方」について提言し、JR東日本は「地方路線の収支」を公開。国労は

コロナ禍ではあるが「2023春闘」や「社員代表選挙」、「地域公共交通対策」など、職場の実態や組合員の思いを

国鉄労働組合  
千葉地方本部  
発責 加藤 晃一  
編集 高橋 弘幸  
【電話】  
JR 2930 FAX 2934  
NTT 043(238)5963

第76回定期地方大会特集号

## 東日本本部あいさつ



渡辺副委員長

現在私は本体エルダーで武藏野線を乗務している。  
組合員が団結できるよう「みんなで集まり、みんなで議論する」ことが大切になっている。  
JR発足から35年、国鉄の「分割・民営」化への当時の自民党の宣伝が反故に。7月には赤字路線が発表された。線路が

取り組みを強化しよう。  
「職場はどうあるべきか、君が国労に入って職場を変えていく。」と大胆に声かけするなど、組織のあり方、仲間を増やす取り組みを強化しよう。

統括センターは来年は80カ所に増え、一人に何でもやらせる施策。安全と技術継承をどう守るか。機械化では守れない。今、30歳以下の若い仲間の退職が増えている。  
駅がなくなり、利用者の移動する権利も奪われる。営利優先企業でいいのか。

議論する必要があると判断し、本日の開催に至った。

1点目として、組織の強化・拡大について。

歴史と伝統ある運動を私たちの代で終わらせるわけにはいかない。労働組合の存在意義は大きい。労働場には労働組合が必要だという声は少なくない。分会再編でバランスをとった体制を喫緊に整えなければ運動が継続できなくなるという危機感を持ち、次のステップに移行できるような体制を整えていく。

2点目は「地域住民の足を守る運動」の更なる展開について。

国交省が「地方鉄道のあり方」について提言し、JR東日本は「地方路線の収支」を公開。国労は

コロナ禍ではあるが「2023春闘」や「社員代表選挙」、「地域公共交通対策」など、職場の実態や組合員の思いを

足を守る運動」の更なる展開について。

今後もこうした取り組みを通して、地域に職場実態を訴えるとともに、「安全で安心して利用できる鐵道の再生」を広範な利用者に訴えていかなければならぬ。

3点目は、春闘をはじめ、生活向上に向けた闘いと労働条件改善の取り組みについて。

会社は「大幅な減収」

を声高に掲げ、賃上げなどをもってのほかと社員周知を続けるが、大幅な減収の中で労働者は疲弊している。生活できる賃金と賃金制度の改善を勝ち取らなければならない。「人件費の見直し」を来る春闘でも主張するだろうが、公共交通維持のため働いているその役割を実感できる「前向きな回答」を求めるだけならない。

結びに、国労の闘いの歴史、経験と教訓を活かす運動の継承について。国労組織の現状は存続の瀬戸際にある。次世代に「財政・組織・運動」をどう残していくか、組織拡大という展望を掲げて労働組合だからできる運動を展開するための大会としたい。建設的かつ前向きな議論をお願いする。

# 方針

JR発足から35年が経過し私たちを取り巻く情勢も大きく変化する中、今後の組織と運動、財政をどう次世代に継承していくかが大きな課題。本部提起の「5年ビジョン」を踏まえ、職場から丁寧な議論を積み上げた運動の展開が求められる。

第一の課題は組織強化・拡大。JR東日本では社員の8割以上が労働組合未加入。これまで組織

で団交などを警鐘乱打して団交などで地域住民の足を守るために、地域住民や関係市町村議員、障がい者団体などと連携し取り組んで

きた。今後も「運動の柱」として取り組みを強化

社員が安心して働き続けられる職場環境の整備と要員問題をはじめとする労働条件改善に向けた取り組みに不要不急はない。

すべての闘いを組織強化・拡大に集約すべく、総團結、総決起で取り組んでいく。

拡大を経験した仲間の取り組みに学び全力で取り組んでいく。

第二の課題は鉄道の安全・安定輸送の確保。「痛みを伴うコスト削減」など、会社の思うままに進められる施策で環境変化が生じ、不安や不満から若年層の退職も増えている。

東日本本部は本社としまるが組織の改編がある以上、どんな職場にも問題があり会社のやり方に変化を求めていくことが重要と考える。

引き続きできることから取り組んでいくよう執行委員会で議論していく

答弁（東日本東日本渡辺副委員長）

# 答弁

## 書記長集約



北嶋書記長

2点目は「労働条件改善」「安全・安定輸送の確保」について。「変革2027」で鉄道事業のスリム化、機械化やシステム化が、スピード感を持って実施されている。

3点目は分会再編について。「集まる事が困難」「分会大会も出来ない」など分会再編を求める声が出され、分会の活性化が組織拡大の最大の力にこれから議論してきた。基本は分会運動の活性化に向けた再編。組合員が集まる、分会内で話が出来る体制を作ろう。

今年は鉄道が開業して150年、JRとなって35年の節目の年。利用者や働く我々の環境や労働条件がどう変化したのかあらためて検証する必要がある。

1点目は「組織強化・拡大」について。国鉄採用者があと数年で全員退職を迎える年齢になる。過半数を占める労働組合が存在しないため多くの職場で「社員代表選挙」が取り組まれ、組合の必要性を訴える機会も与えられている。

「若者と話そう」を統けている分会や分会間交流、機関紙で国労運動を広めている。地本もホームページで「国労ちば」や各分会の機関紙・団交情報などを発信している。

若者の退職が増加。悪化する労働条件と何でもやらせる施策など千葉以東はダイヤ改正の度に利便性が損なわれる。首都圏本部も新たに設置されるが、具体的な姿が見えない。現場の声・実態を集めると、現地検証していく。

千葉は閑散線区とし、木更津→上総一ノ宮間にワンマン運転導入。異常時・災害時は久留里線同様計画運休の対象とされる懸念がある。

JR東日本はローラル線の収支を発表した。都市部の収入が減った赤字路線を廃線す

るの見当違い。引き続き関係自治体や利用者の声を集め「鉄路を守る」を基本に運動を展開していく。

昨年10月の第75回定期大会以降、コロナ禍の中でも創意工夫して運動を取り組んできた。出来的限り議論し意思統一を図ろうと旗開きや拡大地方委員会、拡大分会長会議を開催し、「社員代表選挙」「22春闘」「組織拡大」「分会再編」などを提起してきた。参加した分会からは「柔軟な働き方」「統括センター」「特急回数券廃止」

J E S S ではサポートコーチセンターで対応している。地本で取り組んだ「JR利用者アンケート」ではサービ

ス・安全面での不安が明らかにされた。また、JR会社から地方ローカル線の收支が発表されたが、関係自治体議会からは地域発展のため利便性と安全性の確保は必要不可欠との意見書や要望書が提出されている中、今後も「地域住民の足を守る運動」を広げるため地域密着の運動が課題だ。

毎月16日の駅頭宣伝行動はコロナ禍で中止を余儀なくされたが今後再開に務めていく。「みどりの窓口」廃止提案された関係分会と信した。

JR会社から地方ローカル線の收支が発表されたが、関係自治体議会からは地域発展のため利便性と安全性の確保は必要不可欠との意見書や要望書が提出されている中、今後も「地域住民の足を守る運動」を広げるため地域密着の運動が課題だ。

毎月16日の駅頭宣伝行動はコロナ禍で中止を余儀なくされたが今後再開に務めていく。「みどりの窓口」廃止提案された関係分会と信した。

JR会社から地方ローカル線の收支が発表されたが、関係自治体議会からは地域発展のため利便性と安全性の確保は必要不可欠との意見書や要望書が提出されている中、今後も「地域住民の足を守る運動」を広げるため地域密着の運動が課題だ。

毎月16日の駅頭宣伝行動はコロナ禍で中止を余儀なくされたが今後再開に務めていく。「みどりの窓口」廃止提案された関係分会と信した。

# 討論

8月に分会集会を開催。広範囲でも集まれる工夫をしている。65歳まで、それ以降も働き続けられる職場をどう作っていくか。

社員代表選挙は分会全員で取り組んできた。都賀駅の仲間は、エルダー面談の際、親の

介護等を理由に通勤（銚子）に近い駅を希望していたが、叶わなかつた。通勤は大変で、このままでは退職をせざるを得ない状況。

分会で出来ることはやつていくが、地本からの支援もお願いしたい。

分会は現在13名。3人がパートで、パートでも組合に残ることを希望する先輩たちもいてくれる。再編提案は更に広範囲となれば、運動の力も弱まる。提案のようにならす1は2になるとは思えない。

一番大事なことは、組合員がどう頑張つていけるかということだ。



小澤代議員  
羽志野運輸区分会

基法上、できないと考えている。支社は問題ないと回答。根拠を示すようあらためて申し入れている。その回答次第では労基署の活用も考えている。

JESS千葉支店に要請。

CITS、清掃、メディア、警備各社員が集まっている。

JRは様々な施策を実施しているが、少しでも歯止めをかけることは出来ないか運輸協議会役員会でも議論し要求集約と団交を取り組む。統括センター発足、乗務員が予備勤務の期間、乗務員の不測の事態に備えるために駅業務に就くことは労

団交を求めているが労使間協約を盾に話し合いに応じない状況が続いている。今年、千葉地本の代表がエリア本部とJESS本社との交渉に出席してきた事は大きな前進だ。

今後は施策実施前に当該分会や地本代表が出席して団交を開催できるようお願いする。

組織人員15名中、14名がエルダー、9職場に分かれて中々集まれないが、月1回の集会とニュースの発行を続けている。各職場の近況報告、今後何をしていくのか等、お互いの激励も含めて話し合っている。コロナ禍で旅行も出来ないが、バーベキューなどのレクも計画し実施している。

65歳前に退職希望している仲間に「もう1年と励ました」「死んじやう」という声。（仕事がきつく）精神疾患で休んでいる仲間もいる。エルダーもプロパーもやっていることは何とも変わらない。出来なことは出来ないと、出来ないと他の人にしはつきり訴えていこうと話し合っているが、出来ないと他の人にしは寄せが行ってしまうジレンマ。声を出し、頑張つていきたい。



飯高代議員  
蘇我運輸区分会

コロナ禍の影響もあり、中々分会運動も出来ていない現状。

社員代表選挙では分

会からI君が立候補し落選はしたもの、組合員以外2名の投票があつた。組織拡大、意識の変革は出来るのではないか。

分会再編に関しては、2・3年後にはI君一人になってしまふ。何処の職場でも同じ状況。分会で議論し、職協別（工務協）で一つの分会で良いのではないか。



森田代議員  
千葉建築分会

65歳前に退職希望している仲間に「もう1年と励ました」「死んじやう」という声。（仕事がきつく）精神疾患で休んでいる仲間もいる。エルダーもプロパーもやっていることは何とも変わらない。出来なことは出来ないと、出来ないと他の人にしは寄せが行ってしまうジレンマ。声を出し、頑張つていきたい。



永野代議員  
大網保線分会



東平代議員  
千葉運輸区分会

らは抵抗するより、諦めの方が大きい。

私たちは青年部時代のアノラック闘争などの経験から自信を持つて運動してきた。今の青年たちはそれがない。

赤字を理由にした次から次の攻撃で、青年たちは右往左往している。若い人たちから話を受けた。20代と30代では、意識が違う。

30代は先が見えてくることで、20代とのギャップを感じている。30代は賛成が多いが彼



太田代議員  
新浦安運輸区分会

集めた交流会で話し合ってみたい。頑張れる何かがないと前向きにはなれない。後2・3年では前向きになれない。

労働者、利用者にしづ寄せ。通信環境の悪い職場は、時刻表など紙があつた方が安心だ。タブレットに表示される文字は若手社員の知識の蓄えにはならない。

要員不足、労働強化など色々な理由から管理者も窓口に入るべきだ。急病、身内の不幸など代務者の到着まで

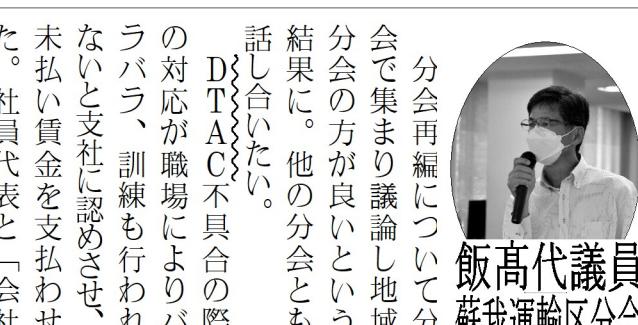
雇用が終わるが分会再編して何をやるのか。

運輸区職場（全体）を組織人員8名。非番者集会、機関紙の発行、他職場分会との交流会など活動している。

会社のタブレットによる教育は不十分で、

車両の運行が終わるが分会再編して何をやるのか。

30代は賛成が多いが彼



森田代議員  
千葉建築分会



飯高代議員  
蘇我運輸区分会

分会再編について分会で集まり議論し地域分会の方が良いという結果に。他の分会とも話し合いたい。

D T A C 不具合の際の対応が職場によりバラバラ、訓練も行われない」と支社に認めさせた。社員代表と「会社

の行き過ぎたコスト削減が、サービス残業に対する認識を麻痺させている。今後二度とこ

う」に要請した。

※ D T A C II 乗務員用に行路・時刻表の入ったアプリ。紙ベースの行路表が廃止されタブレットに送られてくる。

竹なら動く（対処する）のか、葉っぱなら大丈夫」という会社側の解釈。

列車にぶつかるのが、都度申告してほしい。



お問い合わせ・ご相談は  
**〈中央ろうきん〉千葉支店**  
 TEL043-251-5161

▼新社会党千葉県本部▼日本共産党  
 千葉県委員会▼小西ひろゆき参議院  
 議員▼元吉栄一いすみ市議会議員  
 員▼池沢みちよ船橋市議会議員  
 ▼千葉県労働者福祉協議会▼運  
 輸労連千葉県連合会▼千葉県交  
 通運輸産業労働組合協議会▼中  
 央法律事務所▼中央労金千葉支  
 店▼全国交運共済東日本事業本  
 部▼国鐵闘争の経験と教訓を活  
 かす千葉県共闘会議▼京葉臨海  
 鉄道労働組合▼国鉄千葉動力車  
 動組合▼全国労働組合連絡協議会  
 東京協議会東部ブロック▼江戸川区

## 来賓メッセージ

労働組合センター▼葛飾地区労働組合協議会▼全国一般労働組合全国協議会東京東部労働組合▼東京労働安全衛生センター▼ユナイテッド闘争団▼鉄道退職者の会千葉地方連合会▼国鉄労働組合盛岡地方本部▼国鉄労働組合仙台地方本部▼国鉄労働組合秋田地方本部▼国鉄労働組合長野地方本部▼国鉄労働組合地方本部▼国鉄労働組合水戸地方本部▼国鉄労働組合岡山地方本部

【敬称省略・順不同】

# 「蘇我運輸区分会ニュース」が連覇

## 機関紙コンクール表彰



審査の過程で、記事  
が丁寧なほど分かりや  
すく書かれ「分会ニユ  
ー」と書かれた「分会ニユ  
ー」

今年は昨年より発行  
している機関が1つ減  
り、1職協、7分会の  
機関紙が対象となった。  
分会での行動が減る  
中、発行数の減少が目  
立つ。その中で、蘇我  
運輸区分会ニュースは  
群を抜いた発行数で連  
続の最優秀賞に輝いた。

スは誰に向けて書かれ  
ているのか」との問い  
に「分会組合員のみな  
らず、他職場や国労以  
外の社員にも読んでほ  
しいと思い作っている」  
と担当者の思いが明ら  
かになった。

今年は昨年より発行  
している機関が1つ減  
り、1職協、7分会の  
機関紙が対象となった。  
分会での行動が減る  
中、発行数の減少が目  
立つ。その中で、蘇我  
運輸区分会ニュースは  
群を抜いた発行数で連  
続の最優秀賞に輝いた。

## 元吉栄一さんを推薦 いすみ市議会議員選挙

国労千葉地本の議員団で、  
 元国労蘇我運輸区分会の「元  
 吉栄一」いすみ市議が、11月  
 に執り行われるいすみ市議会  
 議員選挙に立候補します。  
 国労千葉地本は推薦を決定  
 しました。

組織内候補者の再選に全力  
 を上げましょう！

### 市政報告会

日時 10月16日 10時～12時  
 場所 大原文化センター



## 2022年度執行委員会体制

	特別執行委員	青年部長	会計監査員	執行委員長	執行副委員長	書記長	執行委員
宮負寧	松田優一	古賀将也	飯田秀樹	佐川正則	高橋弘幸	中島英二	北村智之
才	才	才	才	才	才	才	才
62才	63才	62才	62才	26才	41才	59才	60才

